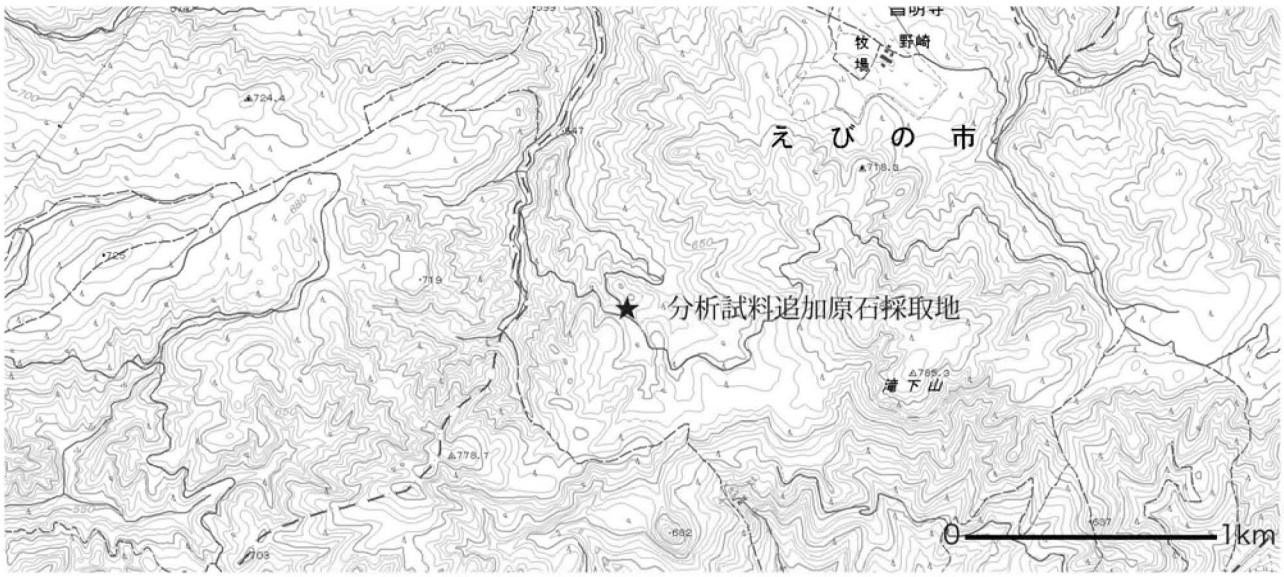


第94図　分析試料追加原石採取地

る（坂田1982）。また、剥離面の特徴は「灰黒色で濃淡の縞が不規則についている。あまりツヤがなく、剥離面は微小な凹凸がみられる。」、「不純物は小さなものばかりである。（中略）また直径0.5㎜程度の球形をしたガラス質の軽石が１～２個点在する。（後略）」とある。野尻町柿川内第２遺跡より出土した約８割の分類できなかった石材に対し、「黒曜石の原石産地は霧島山東麓のどこかにあるものと思われる。」とし、「産出地点の求明はこれからであるが、霧島山産（？）黒曜石として報告しておきたい。」とされている。

前述した内屋敷遺跡や柿川内第１遺跡のように、霧島近辺に立地する遺跡では、これまで確認されている黒曜石とは特徴の異なる黒曜石が存在している。本遺跡で確認された尾立第2OX群とされた黒曜石が、これらの霧島近辺で確認されている黒曜石と同様のものとは現段階では判断できないが、今後、新たな黒曜石産地の発見や蛍光Ｘ線分析による産地推定を行うことによって、その存在が明らかになるであろう。

今回分析によって推定された黒曜石試料を同一基準で比較するために今回、原石試料として分析が行われた、追加原石の採取地を示しておく（林道沿いに露出した白色粘土中、第94図★箇所より採取）。

■後期旧石器時代の性格

本遺跡の特徴を示す石器はナイフ形石器や角錐状石器が多く出土していることにある。このうちAT上位の石器群では、前述したように10段階編年による第５段階、第６段階、第７段階の石器群が出土している。時期が細分される可能性を含む石器群の出土状況ではあるが、本遺跡の性格を位置づけるに当たってナイフ形石器等の刺突具とその機能が考えられる石器が多量に出土していることである。また、遺跡内からは、そうしたナイフ形石器の素材となる４～５㎝大の縦長剥片の存在も確認されている。こうした遺物の存在は遺跡内での石器製作の痕跡を示すものである。

本遺跡が立地する旧地形は、南に立地する大師山から派生した北に延びる平坦な台地の縁辺に立地し、遺跡の東は緩やかに傾斜する谷となっていた。周辺で最も標高の高い大師山に登り、本遺跡を眺めると、尾立第２遺跡の手前側（南側）に傾斜の急な範囲に存在する平場にナイフ形石器等が確認された尾立第３遺跡が立地し、そうした傾斜の急な地形を抜け、傾斜が緩くなり周辺が広い範囲で平場となるような位置に本遺跡が立地していることが分かる。こうした遺跡の立地からみても、当時の集団にとって、規模をもったキャンプ・サイトとして、存在していた可能性が想定される。

第２節　縄文時代早期

■縄文土器

出土した土器は早期に位置づけられる。特に、主体となる土器はなく、それぞれが１～２個体の出土である。すべてが包含層内であるが、その分布は、各個体別に集まっており、表土除去後K-Ahが堆積していた範囲内からの出土であった。

無文土器は２個体が確認され、両者は、胎土、器壁の薄さが明確に異なるが、底部形態は尖底を呈する点で共通している。両者の土器はセット関係と捉えるか、時期差と捉えるかにより、その意味合いが異なってくる。本遺跡と同じように、薄手の無文土器と厚手の無文土器が出土した遺跡に、新富町音明寺第１遺跡があり、撚糸文土器と同一層からの出土が報告されている。また、時期差と考えるのであれば周辺の朝草原遺跡等で指摘されるように、薄手の無文土器は厚手の無文土器に比べ、早い時期に位置づけられるものと思われる。

厚手の無文土器と器形で共通点を見出せるのが578の外面に貝殻腹縁刺突が施される尖底の貝殻刺突文土器である。内面には条痕による調整が行われるが、その調整は、縄文早期に位置づけられる南九州で特徴的な貝殻文系円筒土器とは様相が異なっている。

口縁部形態は、口唇部から内側に緩やかに傾斜する器形で、指頭による調整が顕著に残る。前述した音明寺第１遺跡で確認された無文土器に器形や調整の様相が近似していることから、貝殻文系円筒土器との関連性を考えるよりも、尖底の無文土器と近い関係にあると想定される。これらの土器は早期前葉に位置づけられると思われる。

また、579～590の押型文土器は、太い原体条痕と厚手の器壁から、早期後葉に位置づけられる田村式土器である。

本遺跡より出土した土器は、遺跡の立地する地域的特色を強く示すと考えられる。本遺跡周辺より確認されている縄文土器は数量的に少なく、検討を行うことは時期尚早であろうが、周辺地域からの影響による地域的特徴を捉えられるかが今後の課題となる。

■縄文時代の石器

石器は石鏃、不明石器、打製石斧、礫器、玦状耳飾等が出土し、特に石鏃製作跡と考えられる範囲を10箇所確認した。石鏃に利用される石材にはチャート、玉髄が特徴的で、旧石器時代では頻繁に確認されない石材である。石器が集中する範囲では完形の石鏃の他に欠損した石鏃や、未製品と考えられるものが、剥片、砕片とともに出土する。

玉髄製の石鏃には帖地型石鏃（593）が確認されるとともに、石鏃基部に鋭角な抉りを有するものが特徴的である。帖地型石鏃は西北九州から南九州で確認され、特に、県内で出土する帖地型石鏃には玉髄等の色調が白い石材を用いる傾向がある。遺跡周辺では本遺跡から眺望することができる尾立第３遺跡では製作の痕跡を示す砕片等は出土せず、玉髄製の帖地型石鏃が１点出土している。

また、玉髄製、チャート製の石鏃は、本遺跡内で製作された痕跡を残すのに対し、安山岩製やホルンフェルス製の石鏃は、製品の状態で本遺跡内へ持ち込まれたものと考えられる。石鏃が製作された時期と、搬入された時期を同時期とすることは困難だが、両者の分布域が異なることは指摘しておきたい。

同様に、製作の確認された玉髄、チャート製の石器群も両石器の分布域が若干異なることが多く、同一時期の所産と考えるならば、石鏃製作に、いくつかの製作場所があり、複数人による石鏃製作が行われていた可能性が想定される。

■遺構

縄文時代の遺構は、集石遺構52基と土坑26基が確認された。集石遺構、土坑ともに、遺構が検出された層位により時期を判断することが困難であり、遺構に帰属すると考えられる遺物の出土も確認されなかった。

集石遺構は掘り込みを持ち礫が密集するものと、掘り込みを持たず礫が密集するものとに大別できる。これらの集石遺構をすべて同時期とするには問題もあるが、集石遺構が切り合っている例は存在していない。

また、調査区東側に集中して検出された土坑についても遺構間で切り合い関係は認められなかった。

土坑はSC1を除き、旧地形の谷となる範囲に集中し、地形の傾斜に沿うようにほぼ等間隔で並ぶが、杭痕等は確認されていない。遺構の性格を判断するのに苦慮するが、きわめて硬質な埋土が含まれることで共通する。陥し穴とするには、県内で検出される陥し穴と比較して検出面からの深さが0.7mと浅いが、遺構の配置から谷へと獲物を追い込み、獲物を獲得するための陥し穴であった可能性も残される。

■縄文時代早期の性格

縄文時代早期では上記にまとめた遺構・遺物が確認された。このうち、特に重視すべきは、調査区北より確認される石鏃製作に伴う石器の集中範囲である。このような石器の集中範囲は、当時の集団の生活痕跡が示されるものと考えられる。石器が集中する範囲と集石遺構、土坑等の配置を考え、総合的に遺跡を判断するべきであろうが、出土した土器はその全てが同時期の所産とは考えづらい。そのため縄文時代早期と大枠で時期を位置づける事ができるものの、細かな時期差を考慮するならば、遺構と遺物との時期の混在は避けられない。本遺跡の縄文時代早期の遺構・遺物の特徴についてまとめるならば、①土器は複数型式の破片が存在するのでなく、接合が可能なものが多くを占め、遺跡内より確認された土器は4～5個体であること。②出土した土器のうち、無文土器と貝殻刺突文土器は、器壁、器形上の違いはあるものの、底部形態は共通して尖底で類似点を持つこと。③石器は玉髄製、チャート製の石鏃が多く出土し、これらの石鏃と同一石材の剥片、砕片が平面的に集中し、石器製作を行った痕跡を残すこと。④磨石や石皿等の植物資源に対応すると考えられるものが極端に少なく、相対的に石鏃等の刃器類の比率が高いこと。⑤上述の土器・石器の集中範囲と集石遺構、土坑の重複は認められず、遺構同士の切り合いも認められないこと。があげられる。⑤については、層位的な区分は不可能であり、出土した土器からも一括性に疑問も残すが、時期に大きな開きがなく、近い時期の所産である可能性も考えられるだろう。

調査もほぼ終わりに近づいた、2月初旬、遺跡内に子鹿が1匹現れた。子鹿は完掘された土坑やトレンチに足をとられることもなく、調査区（A2区）を南西から北東側へゆっくりと緩やかな傾斜の谷方向から尾根の鞍部に向かい駆け上がるように横切って行った。それまでも夕方近くなると鹿の鳴き声が聞こえることがあったが、調査中、実際に姿を現したのは初めてであった。その姿に驚きつつも、縄文時代あるいは旧石器時代に同様な風景があったのかとも感じさせる出来事であった。

【参考文献】

岸田裕一・日髙優子・藤木聡「桑ノ木津留産黒曜石原産地の踏査報告（1）」『九州旧石器』第11号　九州旧石器文化研究会2007

坂田邦洋「九州の黒曜石」『史学論叢』13　1982

藤木聡「先史時代における黒曜石の利用-黒曜石の消費地宮崎-」『Stone Sources』№1　石器原産地研究会2002

宮崎県旧石器文化談話会「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」『旧石器考古学』第66号　旧石器文化談話会　2005

宮崎県埋蔵文化財センター『内屋敷遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第14集1999

宮崎県埋蔵文化財センター『音明寺第1遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第102集　2005

宮崎県埋蔵文化財センター『山田遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第146集2007

宮崎県埋蔵文化財センター『野首第2遺跡　第一分冊』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第158集2007

望月明彦「黒耀石分析科学の現状と展望」『黒曜石文化研究』創刊号　明治大学人文科学研究所2002

藁科哲男・東村武信「石器原材の産地分析」『鎌木義昌先生古稀記念論集　考古学と関連科学』鎌木義昌先生古稀記念論文集刊行会1988

写真図版

1　遺跡遠景（北西より）

2　Ⅵ層検出状況

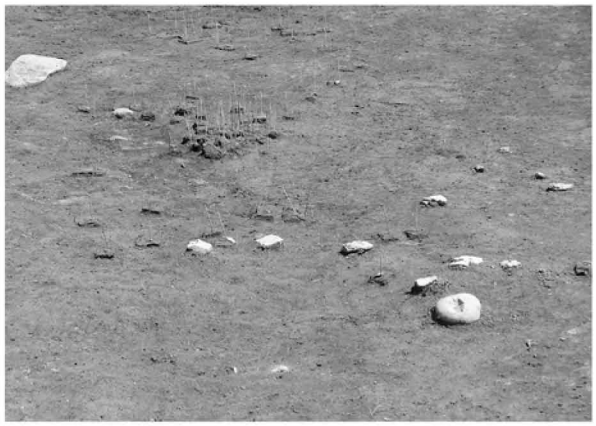
3　Ⅷ層(AT)検出状況

4　Ⅷ層(AT)除去後の地形

5　Ⅸ層出土　ブロックA検出状況（竹串箇所より黒曜石製石器が出土した。）

6　土坑検出状況（作業員が立つ箇所に土坑が確認された。）

7　Ⅸ層　SI18検出状況



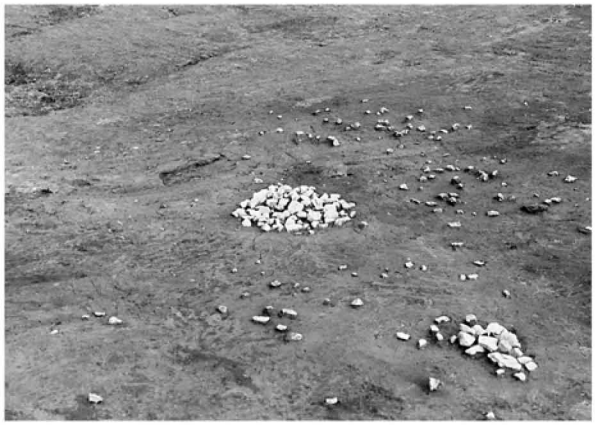
8　ブロックAとSI18

9　SI30検出状況

10　SI23検出状況

11　SI27検出状況

12　遺物出土状況（B9Gr・B10Gr）



13　SI44・45検出状況

14　SI55・56検出状況

15　K-Ah堆積状況

16　調査B区　V層遺物出土状況

17　SI38検出状況

18　SI38検出層

19　SI41検出状況

20　VI層石器出土状況

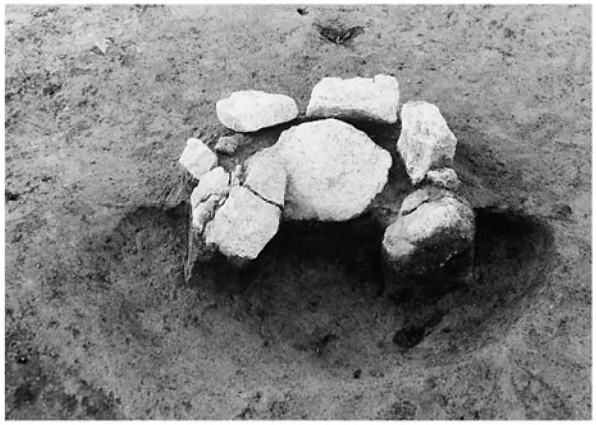
21　SI33検出状況

22　SI53検出状況

23　SI34検出状況

24　SI34配石検出状況

25　SI1検出状況



26　SI1半截状況

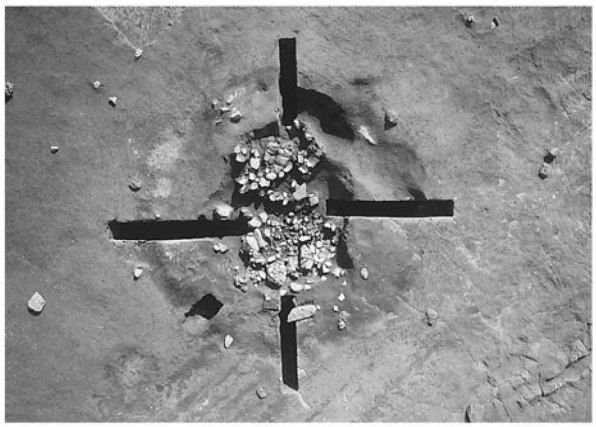
27　SI3検出状況

28　SC3検出状況

29　SC3断ち割り状況

30　SC7・8完掘状況

31　ＳＺ１半截状況



32　ＳＺ１遺物出土状況

33　弥生土器検出状況

34　ＳＺ１完掘状況

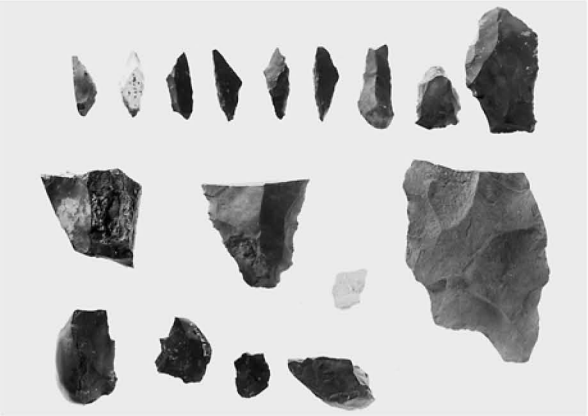
35　ＳＸ１半截状況

36　ＳＸ１完掘状況

37　ＳＸ１石組除去状況

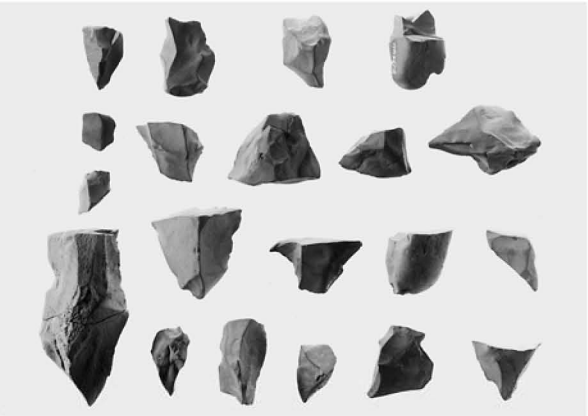
38　ＳＥ１完掘状況

39　後期旧石器時代Ⅰ期の石器

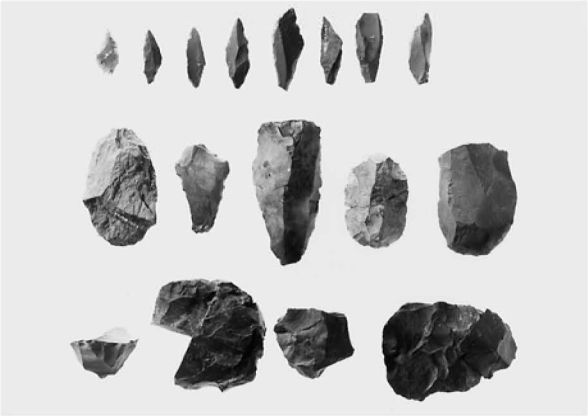


40　後期旧石器時代Ⅱ期の石器（1）

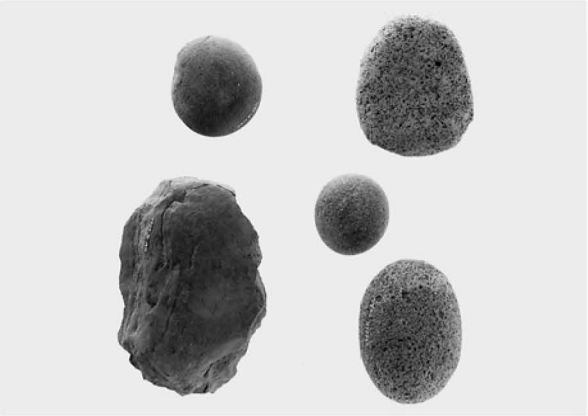
41　後期旧石器時代Ⅱ期の石器（2）



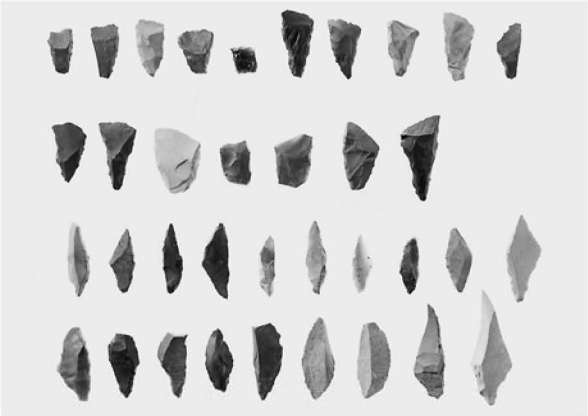
42　後期旧石器時代Ⅱ期の石器（3）



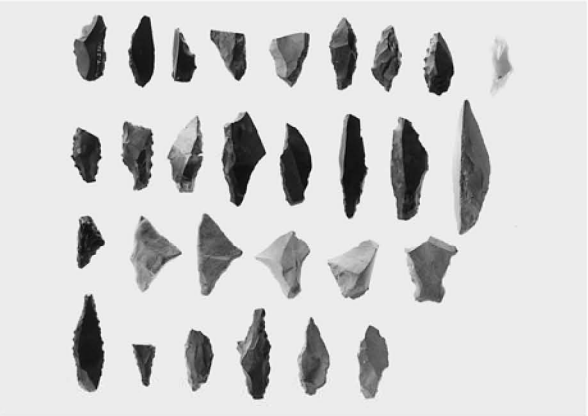
43　後期旧石器時代Ⅱ期の石器（4）



44　後期旧石器時代Ⅱ期の石器（5）



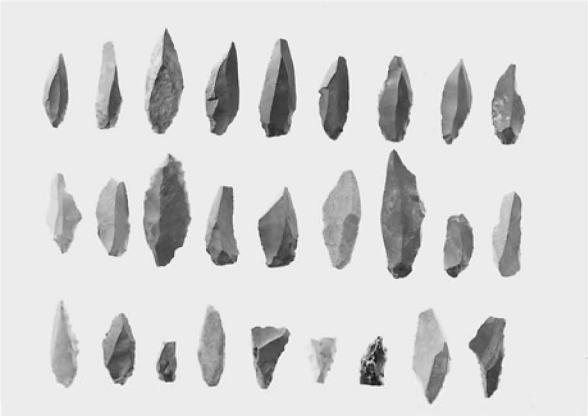
45　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（1）



46　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（2）

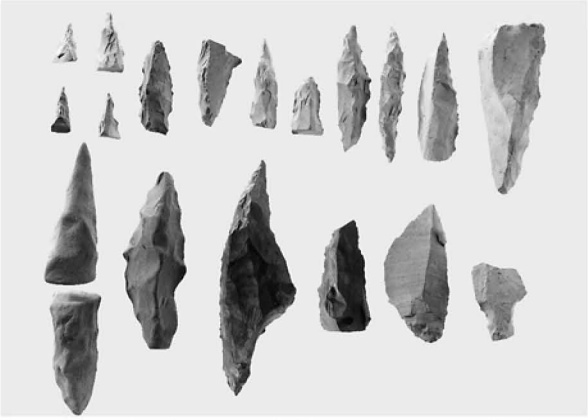
47　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（3）

48　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（4）

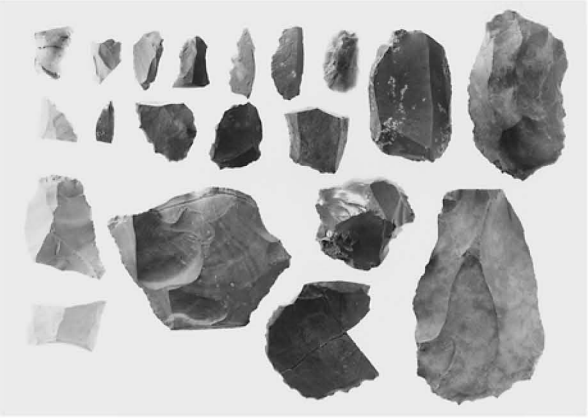


49　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（5）

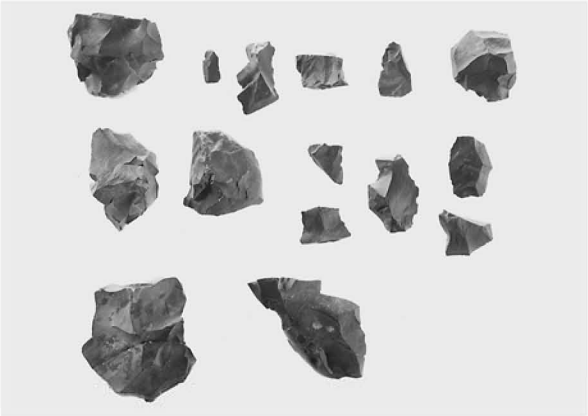
50　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（6）



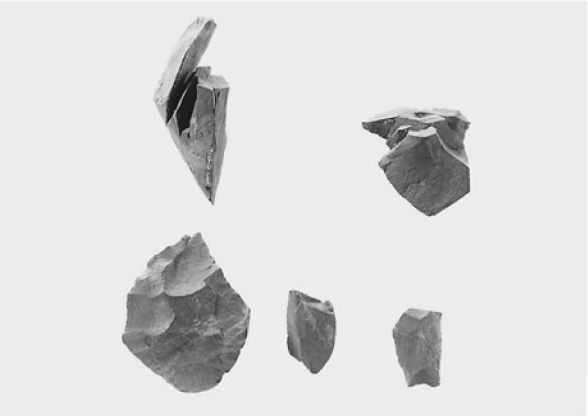
51　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（7）



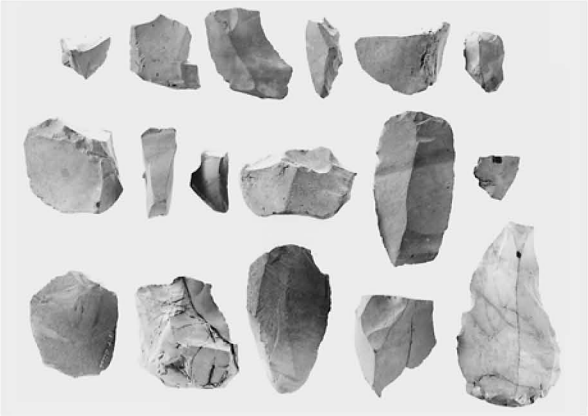
52　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（8）



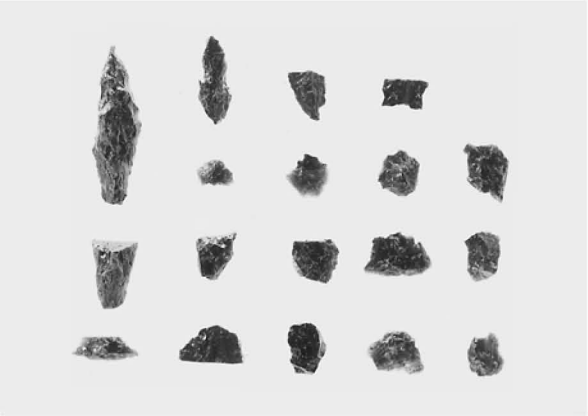
53　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（9）



54　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（10）



55　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（11）



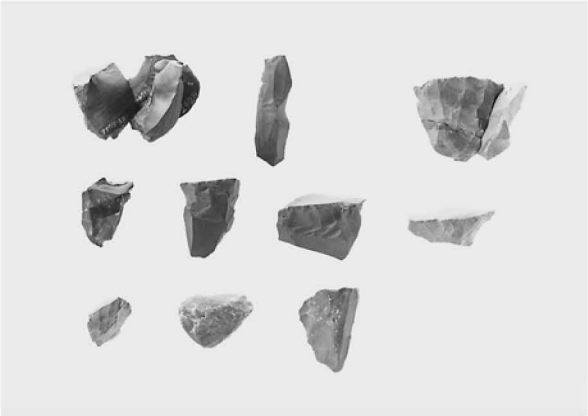
56　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（12）

57　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（13）

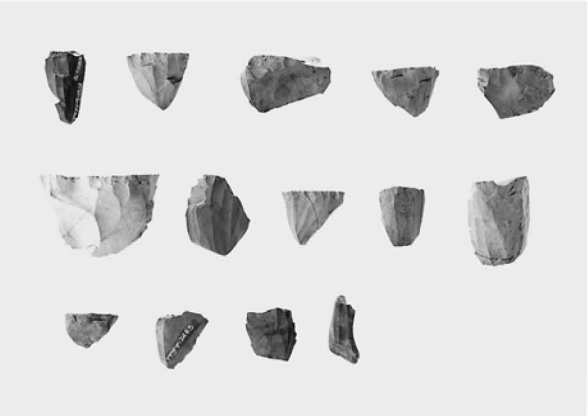
58　後期旧石器時代Ⅲ期の石器（14）

59　後期旧石器時代Ⅳ期の石器（1）

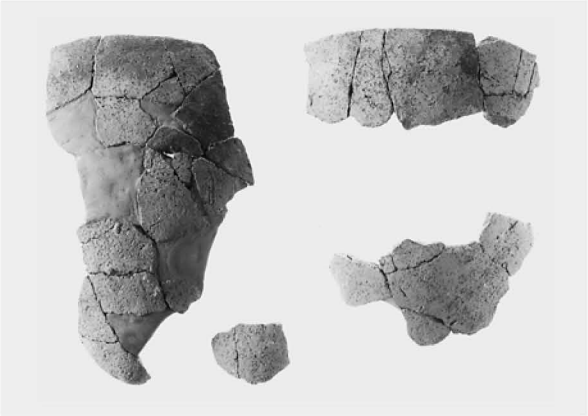
60　後期旧石器時代Ⅳ期の石器（2）



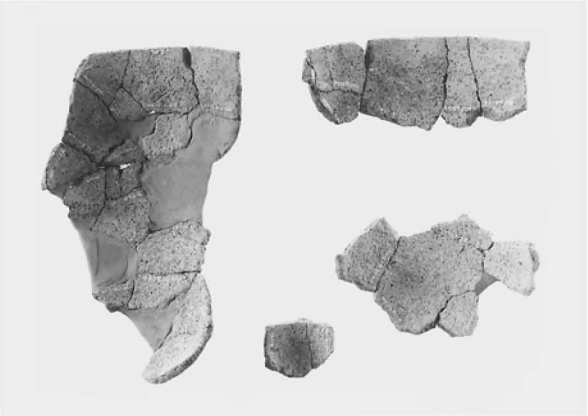
61　後期旧石器時代Ⅳ期の石器（3）



62　後期旧石器時代Ⅳ期の石器（4）

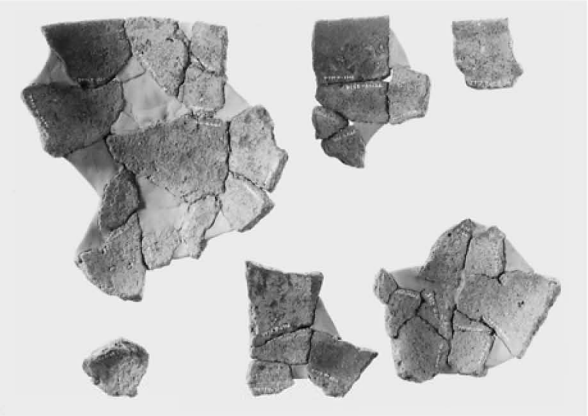


63　縄文時代早期の土器（1）

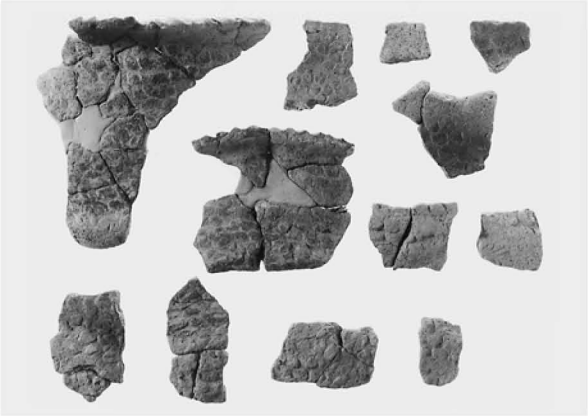


64　（裏）

65　縄文時代早期の土器（2）



66　（裏）



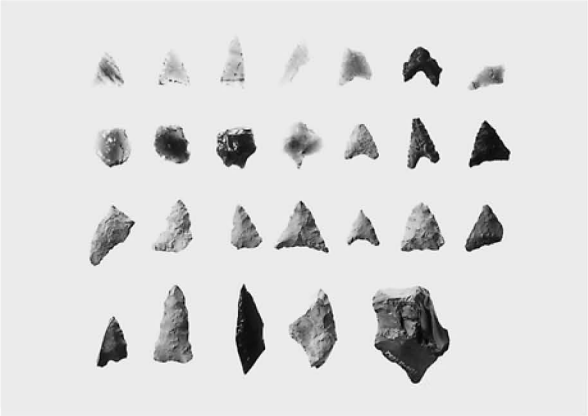
67　縄文時代早期の土器（3）

68　（裏）

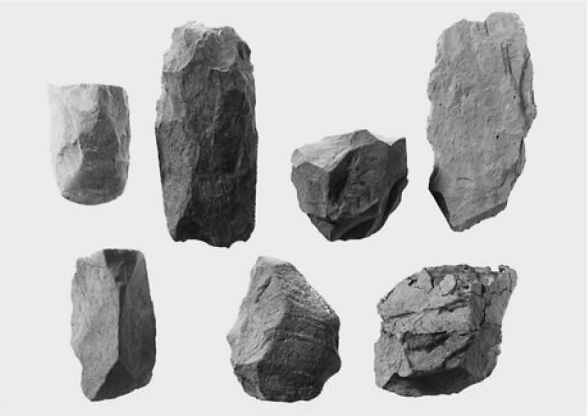
69　縄文時代早期の土器（4）

70　縄文時代早期の石器（1）

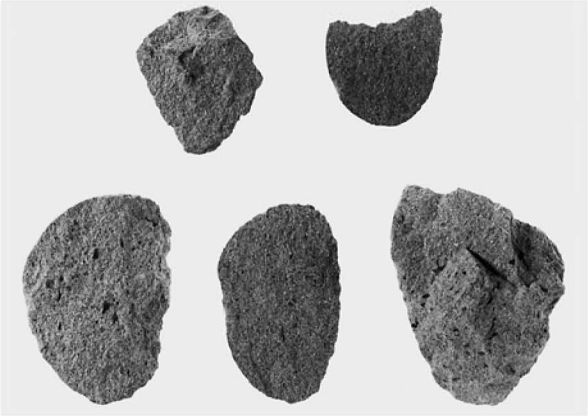
71　縄文時代早期の石器（2）



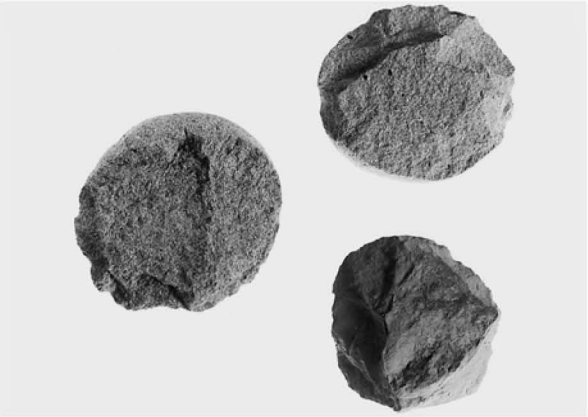
72　縄文時代早期の石器（3）



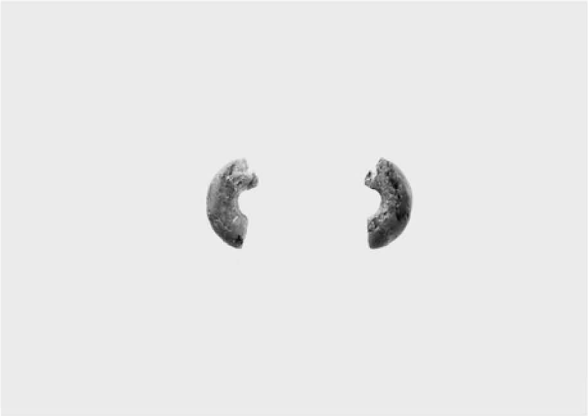
73　縄文時代早期の石器（4）



74　縄文時代早期の石器（5）



75　縄文時代早期の石器（6）



76　縄文時代早期の石器（7）

77　SZ1出土弥生土器（1）

78　SZ1出土弥生土器（2）

79　SZ1出土弥生土器（3）

80　SZ1出土弥生土器（4）

81　SZ1出土弥生土器（5）

82　SZ1出土弥生土器（6）

83　SZ1出土弥生土器（7）

84　SZ1出土弥生土器（8・9）

85　SZ1出土弥生土器（10）

86　ＳＺ１出土弥生土器（11）

87　ＳＺ１出土弥生土器（12）

88　ＳＺ１出土弥生土器（13）

89　ＳＺ１出土弥生土器（14）

90　ＳＺ１出土弥生土器（15）

91　ＳＺ１出土弥生土器（16）

92　ＳＺ１出土弥生土器（17）

93　ＳＺ１出土弥生土器（18）

報告書抄録

ふ り が な	おだてだい２いせき
書　　名	尾立第２遺跡
副　書　名	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　169
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番名	第57集
編著者名	岸　田　裕　一
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒880-0212　宮崎市佐土原町下那珂4019番地
発行年月日	2008年２月22日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
おだてだい 尾立第２遺跡	みやざきけんこゆぐん 宮崎県児湯郡 つのちょう 都農町 かわきた 大字川北字 ゆ む た　たわらいし 湯牟田・俵石 たつがひら 竜ヶ平	45406		32°15'11"	131°31'0"	2005.06.09 ～ 2006.02.10	6,000㎡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う発掘調査

種　別	主な時代	遺　構	遺　物	特記事項
集落跡	後期旧石器時代前半	礫群　1基	局部磨製石斧・敲石	姶良Ｔｎ火山灰上下からナイフ形石器等の石器群が出土。尖底の貝殻刺突文土器が出土。玉髄、チャート製石鏃の製作を示す跡を検出。
	後期旧石器時代後半	礫群　4基	ナイフ形石器・台形様石器	
	旧石器時代終末		角錐状石器・剥片尖頭器	
			細石刃・細石刃核	
	縄文時代早期	集石遺構　52基	縄文土器（貝殻・押型・無文）	
		土坑　26基	石鏃・石斧・玦状耳飾	
	弥生時代後期後半	不明遺構　1基	弥生土器（壺・甕・鉢）	
	近世	石組遺構　1基		

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第169集

尾立第２遺跡

東九州自動車道建設（都農～西都間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書57集

2008年２月

編集発行　宮崎県埋蔵文化財センター
〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地
TEL 0985-36-1171　FAX 0985-72-0660

印　　刷　田中印刷有限会社
〒880-0022 宮崎市大橋３丁目110番地
TEL 0985-28-4724　FAX 0985-20-9285